

2018年中期ビジョン(2016-18年)について

2016年6月1日

古河電池株式会社

代表取締役社長 徳山 勝敏



目次



- 1. 2015年中期ビジョン(2013-15年)の達成状況**
- 2. 2018年中期ビジョン(2016-18年)**

目次



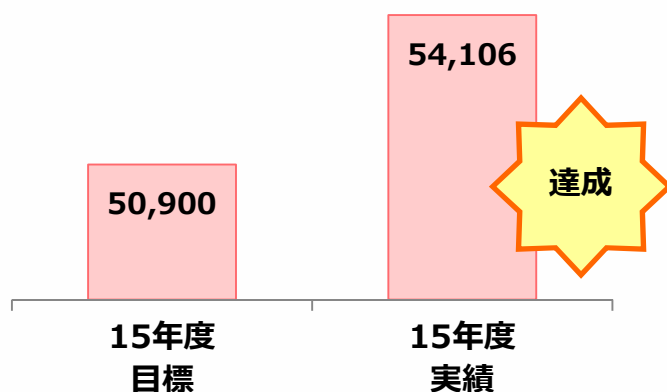
- 1. 2015年中期ビジョン(2013-15年)の達成状況**
2. 2018年中期ビジョン(2016-18年)

2015年中期ビジョン 主要経営指標の達成状況

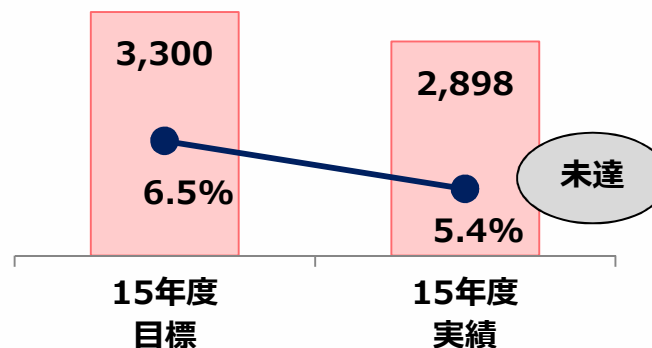
(百万円)

	15年度目標	15年度実績
売上高	50,900	54,106
海外売上高比率	30.0%	33.1%
営業利益	3,300	2,928
営業利益率	6.5%	5.4%

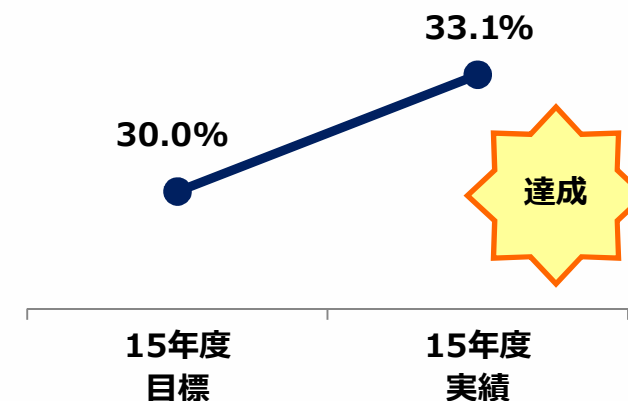
売上高



営業利益



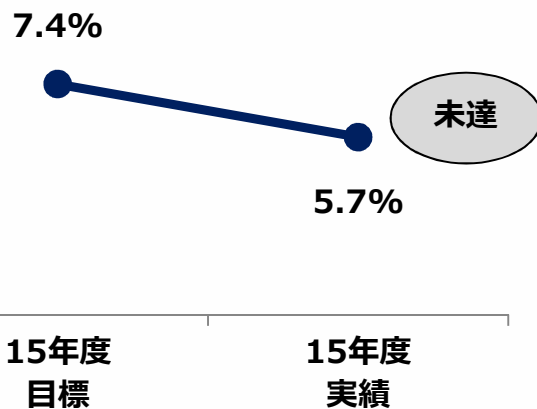
海外売上高比率



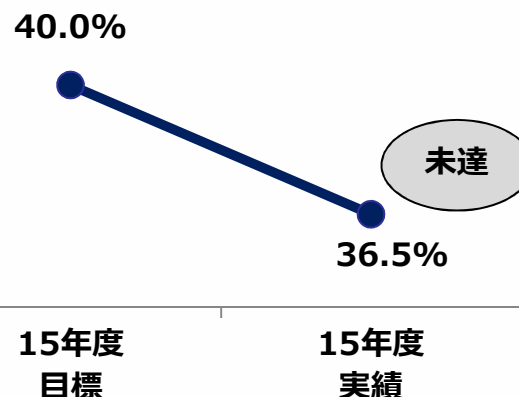
2015年中期ビジョン 主要財務指標の達成状況

(百万円)	15年度目標	15年度実績
ROA	7.4%	5.7%
自己資本比率	40.0%	36.5%
有利子負債	8,700	11,536
DEレシオ	0.5	0.63

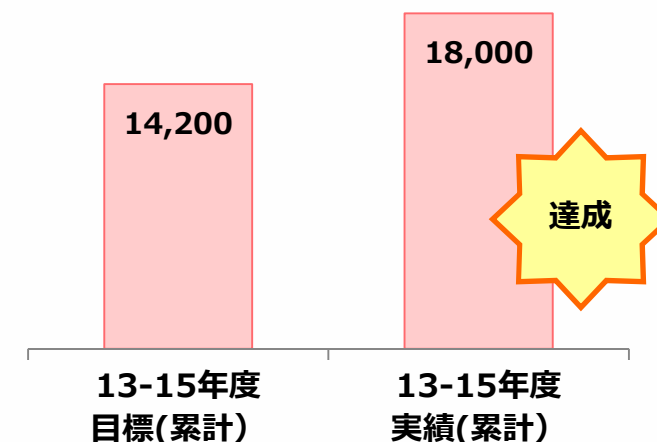
ROA



自己資本比率



設備投資額



目次

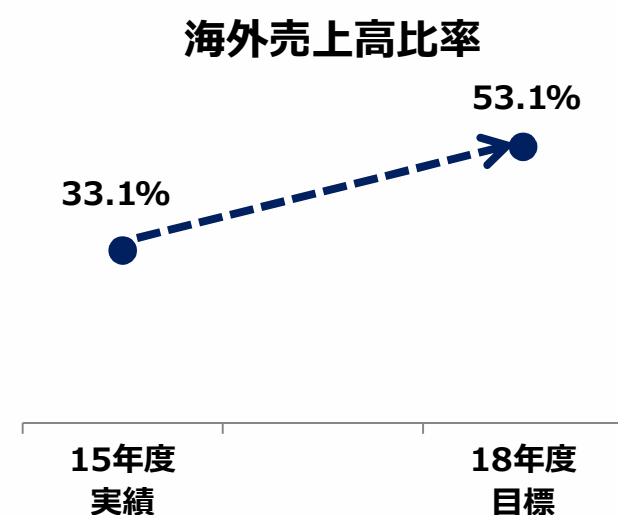
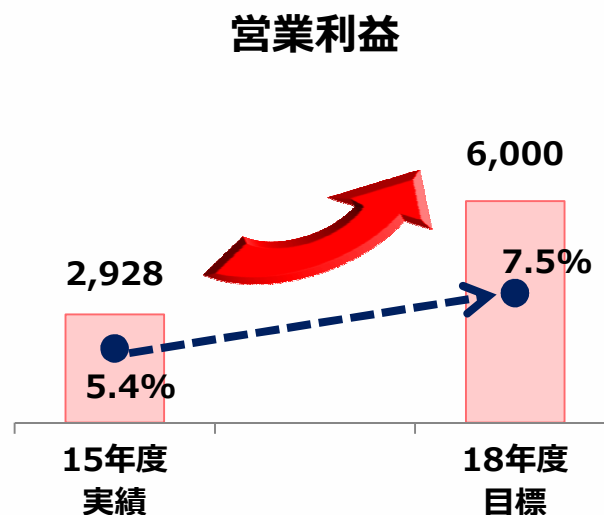
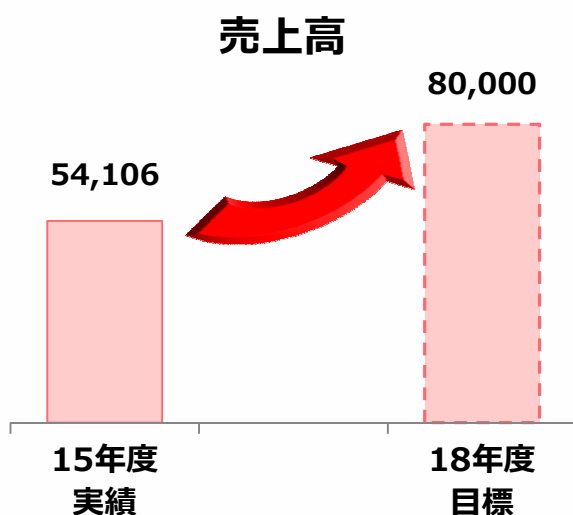


1. 2015年中期ビジョン(2013-15年)の達成状況
- 2. 2018年中期ビジョン(2016-18年)**

2018年中期ビジョン 経営目標

■ 主要経営指標

(百万円)	15年度実績	18年度目標	15年度比
売上高	54,106	80,000	+25,900
海外売上高比率	33.1%	53.1%	+20pt
営業利益	2,928	6,000	+3,100
営業利益率	5.4%	7.5%	+2.2pt



2018年中期ビジョン 経営目標

■ 主要財務指標

(百万円)	15年度実績 (16年3月末)	18年度目標 (19年3月末)	15年度末比
総資産	50,409	60,000	+9,591
有利子負債	11,536	12,000	+464
自己資本比率	36.5%	45.0%	+8.5pt
D/Eレシオ	0.6倍	0.4倍	△ 0.2
ROA (営業利益ベース)	5.8%	10.0%	+4.2pt

ROA



自己資本比率



D/Eレシオ



15年度
実績

18年度
目標

15年度
実績

18年度
目標

15年度
実績

18年度
目標

2018年中期ビジョンの位置づけ

■ 2020年度長期ビジョン実現に向けた重要な期間

長期ビジョン目標 - 2020年度

- 連結売上高 : 980億円
- 連結営業利益 : 90億円 (営業利益率 : 9.2%)
- 海外売上高比率 : 60%

■ 「打って出る5年間」でダイナミックに成長を目指す

- 2015年度までの5年間で足元を固め、これからの5年間で打って出る
- 業界再編など、様々な変化をチャンスとして敏感に捉える
- ふくしま復興起業、タイ拠点の増強、インドネシア新会社の大型投資効果を発揮
- 企画力、構想力、提案力、発信力を強化し存在感を高める
- やみくもな拡大ではなく「選択と集中」によりスピード感を持った事業の遂行

■ 拡大へのキーワード

- 事業拡大による売上増 (新製品、新規市場、海外)
- 効率化と合理化による利益率増 (集約、コスト削減)
- 海外拠点拡大による海外売上高比率増 (拠点能力拡大、新拠点)

主要セグメントにおける重点課題

■ 自動車電池事業

- 国内における生産体制と販売体制の再構築
- 新たな製造方法を適用した製品の拡大によるコスト競争力と品質競争力のアップ
- 環境対応車向け電池の量産本格化による競争力アップ
- SFC（タイ）の生産体制増強と現地での開発体制強化
- FIBM（インドネシア）の早期事業拡大
- タイ、インドネシアに続く次の事業展開の検討

■ 産業機器事業

- 再生可能エネルギー活用分野を中心とした、国内の新市場への取組強化
- 国内生産拠点への投資による品質力、コスト競争力のアップ
- 東南アジア市場を中心とした海外インフラ市場での販売強化

研究開発活動

- **リチウムイオン電池開発（商品開発と要素研究）**
 - 電極、セル、システム商品それぞれに取り組む
 - 次世代電池に向けた要素研究、宇宙向け電池開発の継続
- **鉛蓄電池の共通基盤技術開発（鉛蓄電池の進化）**
 - 新たな用途に向けた耐久性の向上
 - 蓄電性能の効率化
- **新規事業の創出**
 - マグネシウム空気電池の拡大とそれに続く新たな製品開発

研究開発費：5,800百万円

（※16-18年度累計）

設備投資

■ 国内事業セグメント、研究開発部門への投資

- 自動車電池関係の一部工程能力増強
- 15年までの自動車電池に続き、産業機器製品の競争力強化
- リチウムイオン電池開発関連

■ SFC（タイ）の生産能力増強

- タイ近隣諸国における旺盛な需要に対応

■ FIBM（インドネシア）の拡大

- 巨大な国内需要への対応（自動車、オートバイ）

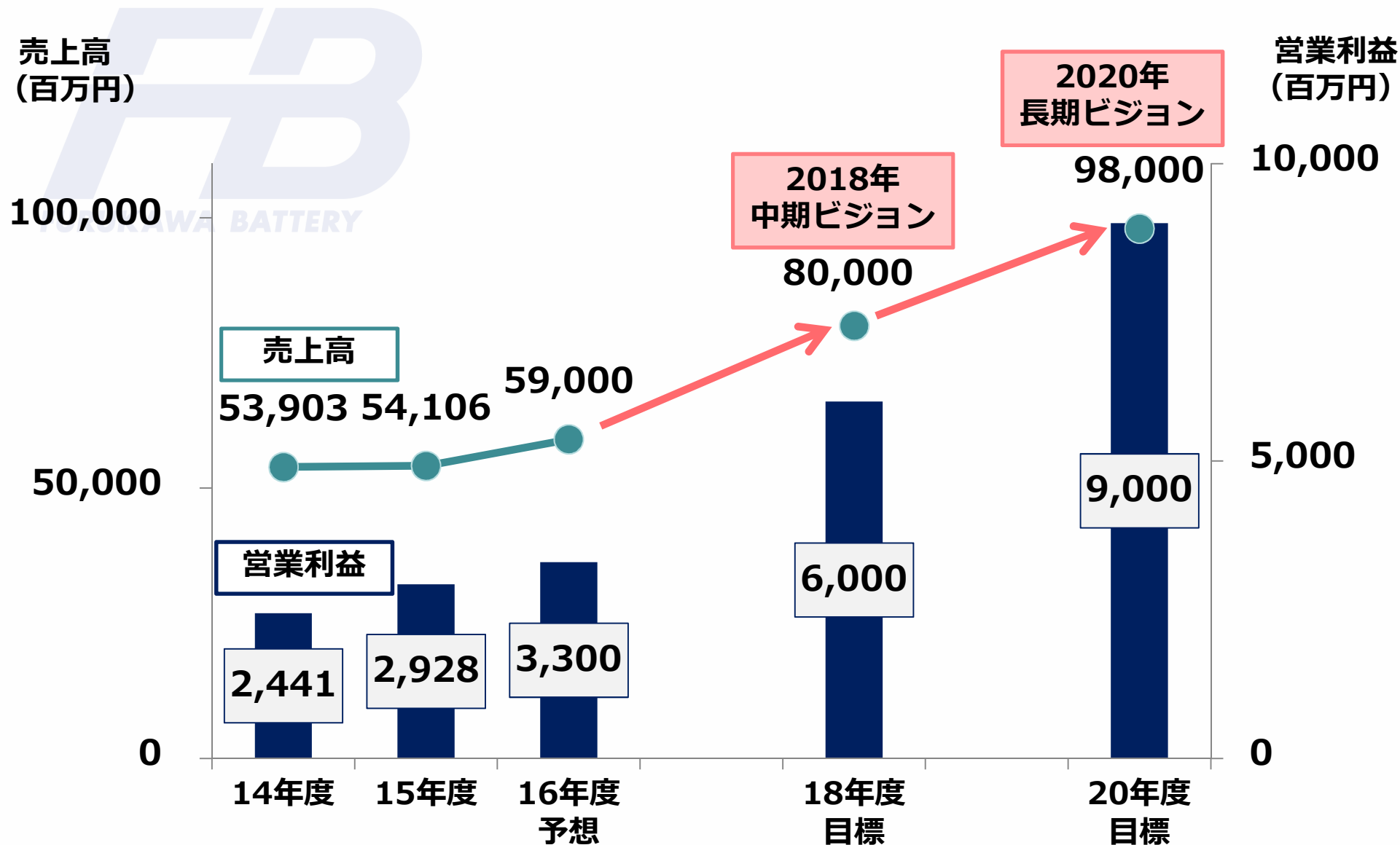
設備投資額 : **16,000百万円**

国内事業分野 : 6,000百万円

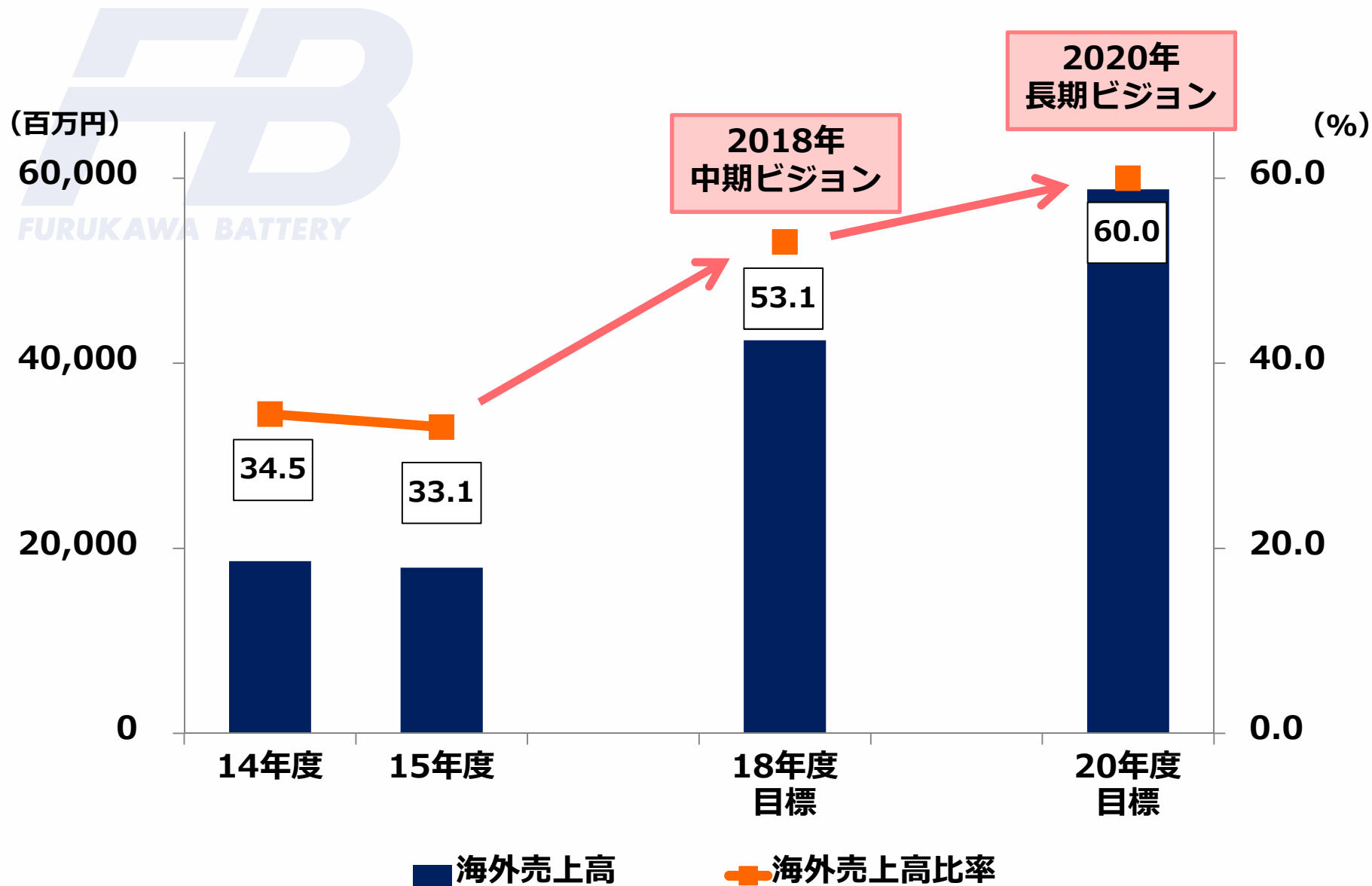
海外事業分野 : 10,000百万円

(※16-18年度累計)

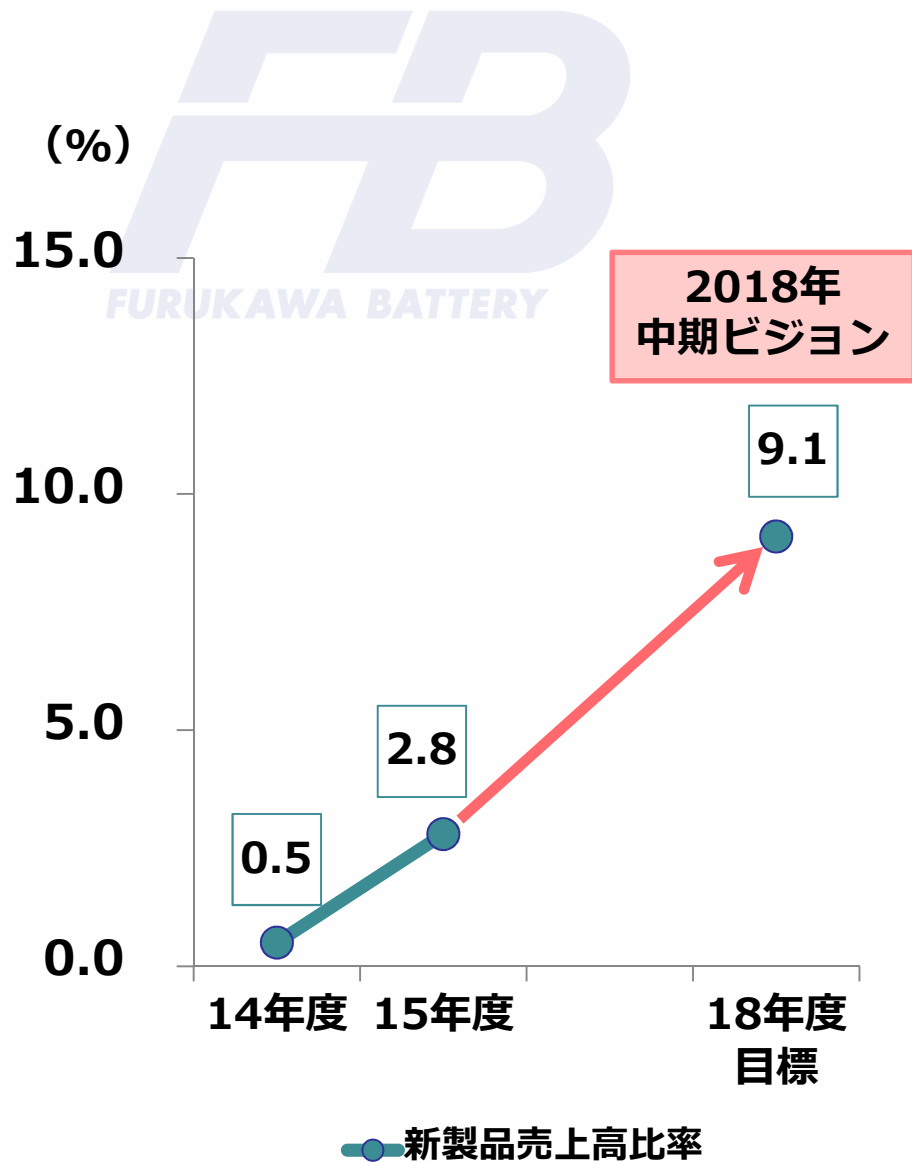
2018年中期ビジョン～2020年長期ビジョン



中長期ビジョン 海外売上高目標



新製品売上高比率*目標



■ 自動車用

- 環境対応車対応
ウルトラバッテリー、E N規格電池

■ 産業機器用

- 再生可能エネルギー、インフラ対応
サイクルユースタイプ電池

■ 新規開発アイテム

- リチウムイオン電池
- マグネシウム空気電池

* 個別売上高に対する新製品売上高の比率

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 為替相場の変動による影響
- ・ 主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・ 海外における政治的および社会的リスク
- ・ 取引先の業績悪化等
- ・ 自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。
年度表記について、14年度は2015年3月期、15年度は2016年3月期（以下同様）を表しています。